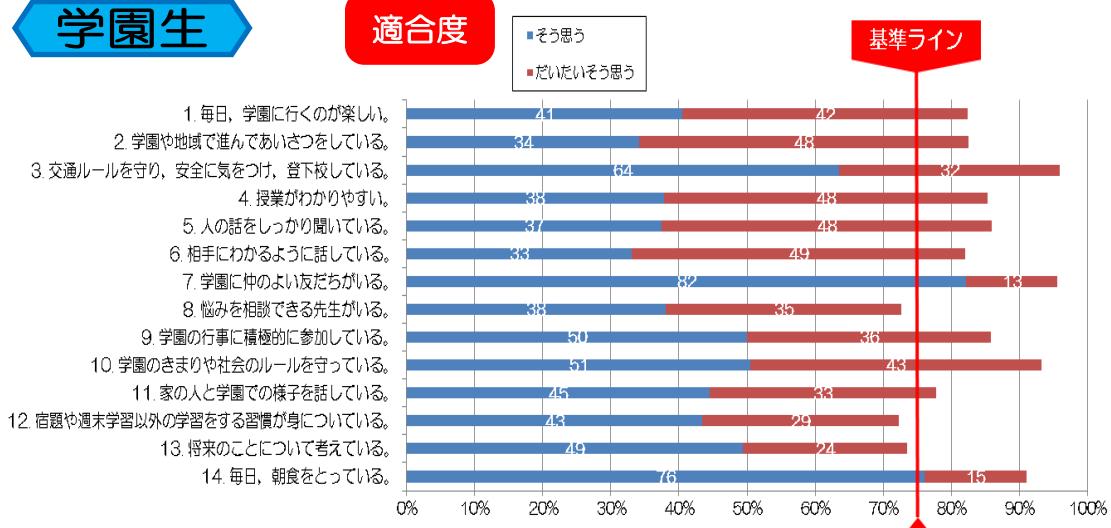


後期学園評価アンケート結果

平成30年
1月実施

学園生

適合度

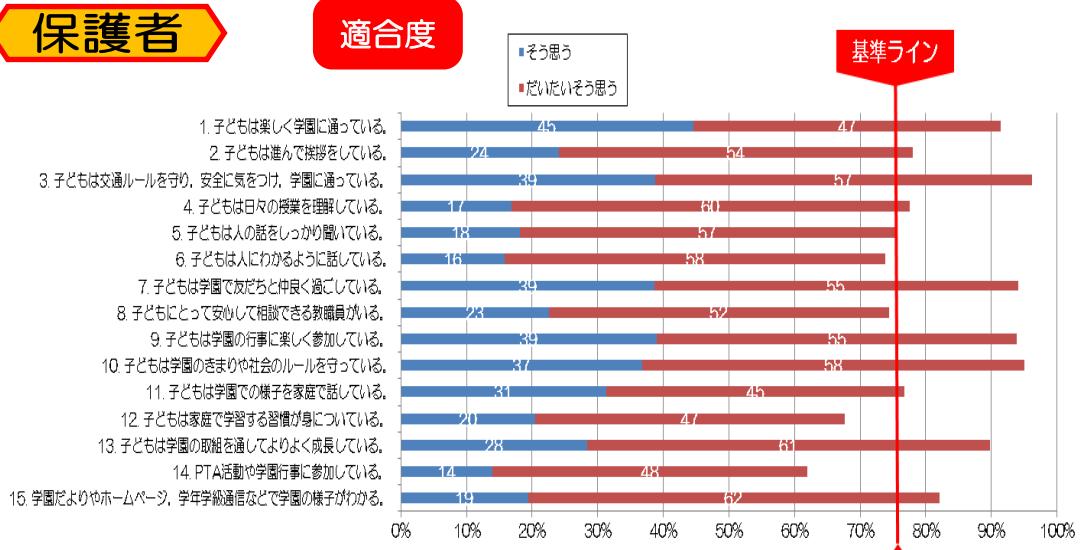


結果の見方について

- 学園生・保護者・教職員の適合度について、アンケートを実施しました。
- 肯定的な回答のみ(横棒グラフの左から「そう思う」「だいたいそう思う」の順)をグラフ化し、75%を判断の基準としています。

保護者

適合度



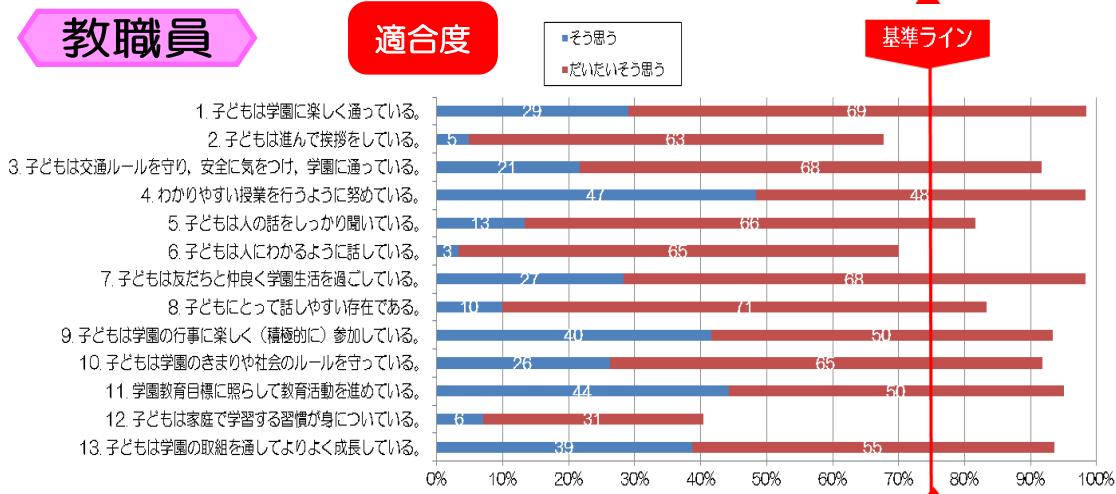
結果をもとにしての考察

- 前期と比べ、学園生・保護者アンケートでの「交通ルールを守り、安全に気をつけ、登下校している」「学園のきまりや社会のルールを守っている」の肯定的な回答が高くなり、学園のきまりや社会のルールの重要性を理解し、規範意識がさらに高まっていることがうかがえます。
- 「学園に相談できる教職員がいる」については学園生、保護者とも前期よりも肯定的な回答が増えているものの基準を下回っていることから、今まで積み上げてきたことを大切にしつつも学園生に寄り添った関わりや子どもを中心据えて保護者の方と共に子育てを考える視点をもつことを心がけていく必要があると考えています。

- 家庭学習のあり方について、学園生・保護者アンケートでは前期より肯定的な回答は高まったが、依然として課題があることがうかがえるため、学園と家庭が密に連携して、基本的な生活習慣の中に、家庭学習の時間を位置づけたり、学習環境を整備していったりする必要があります。

教職員

適合度



保護者のみなさまには、アンケートにご協力いただきありがとうございました。今回提出いただいたアンケート用紙は、607枚でした。前期に比べ、結果としてはおおむね肯定的な回答が多かったのですが、基準を下回る内容及び自由記述欄にお書きいただいた内容から、保護者の方々のおもいをうかがうことができました。学園運営協議会理事の方からも、地域と家庭、学園が連携して、子どもの生活やそれを取り巻く家庭や地域社会の現状を把握し、子どもにどのような関わりが必要かを考えていくことが大切であるとご示唆いただきました。これらのことと踏まえ、子どもを中心に据えた取組であることはもちろんのこと、各取組を常に見直しながら、子どもをよりよく育んでいきたいと考えています。今後も引き続き、本学園教育にご理解、ご協力をよろしくお願ひいたします。